

小2国語 出題のねらいと対策

1 かん字の読みとり 57.7%

ねらい：漢字の読み方についての知識をみる。

分析と対策：いくつかの音読み・訓読みがある漢字に気をつけさせてください。

2 かん字の書きとり 85.5%

ねらい：漢字の書き方についての知識をみる。

分析と対策：一年生の復習です。確実に身につけているかどうかを確認します。漢字のとめはねについては、しっかり身につけさせてください。

3 ことばのきまり 93.4%

ねらい：「は・へ・を・で・の・に」の助詞についての知識をみる。

分析と対策：「なには」「どこへ」「なにを」ということばの役割を理解させるとともに、「は」「へ」「を」は「わ」「え」「お」と発音は同じですが、表記が異なることに気づかせてください。また、助詞を間違えると、文の意味が変わったり文が成立しなくなったりすることがあるので、助詞の使い方には注意を払うようにします。

4 文をつくる 81.0%

ねらい：正しい文のつくりについてみる。

分析と対策：自動詞「うごく」「おちる」「ながれる」と、他動詞「うごかす」「おとす」「ながす」が区別できているかどうか確認してください。他にも「紙がやぶれる・約束をやぶる」、「字がきえる・火をけす」など、いくつかの例をあげて説明してください。

5 文しょうの読みとり 62.3%

ねらい：物語の場面や、文章の細部の内容を読み取る力をみる。

分析と対策：空腹で泣く子ぎつねと、子どものために一生けんめいえさをとりに行く親ぎつねのようすを読み取ります。「～から。」という文でまとめるという、設問の指示を見落とさないで書くことも重要です。音や声をあらわすことば(擬音語)と、人やものの様子をあらわすことば(擬態語)の問題です。音や様子をあらわすことばを身のまわりから探し、例えば「ざあざあ」と「しとしと」、「ぴかぴか」と「ちかちか」など、擬音語や擬態語の、音や様子のさまざまな違いで、表現がふくらむことに気づかせてください。朗読をするなどして、音の様子を実際に声に出してみるのもよいでしょう。文章の場面構成が把握できているかを問う問題です。本文は、きつねの巣の中の子ぎつねとのやりとりの場面と、親ぎつねが食べ物をとりに村へ出かける場面とにわかれています。情景を頭に浮かべられるように、それぞれの場面の登場人物や、何をしている様子かが把握できるように説明してあげてください。

全体の平均点は77.6点です。大問別テーマのうしろの数字は、全体の大問別正答率です。個人成績表を見ながら、不得意テーマに対する今後の学習の方針を見つけましょう。